

令和6年度 第1回大和市総合計画審議会 会議録

- 1 日時 令和6年4月4日(木) 13時30分～16時10分
- 2 場所 市役所本庁舎 5階 第6会議室
- 3 出席者 委員16名(欠席2名)
対 面：池田、糸賀、大西、黒岩、小出、小林、高尾、豊田、中林、
長谷川(愛)、長谷川(賢)、眞壁、山元
オンライン：川淵、田中(孝)、福元
(委員、敬称略)
- 4 傍聴人 なし
- 5 次第
- 1 開会
 - 2 市長あいさつ
 - 3 新大和市総合計画基本構想・基本計画骨子(案)の諮問
 - 4 議題
(1) 新大和市総合計画基本構想等について
 - 5 その他
- 6 会議資料
- | | |
|------|------------------------------------|
| 資料 1 | ：新大和市総合計画基本構想・基本計画骨子(案)について(諮問)(写) |
| 資料 2 | ：新大和市総合計画について |
| 資料 3 | ：計画の体系 |
| 資料 4 | ：新大和市総合計画(第10次大和市総合計画)基本構想(案) |

【議 事】

- 会長 : 議題（１）新大和市総合計画基本構想等について、説明を求める。
- 事務局 : **【資料１～３について説明】**
- 委員 : つながりが幸せの大事な要素とされていると説明があったが、根拠としている研究結果などがあれば教えてほしい。
- 事務局 : ハーバード大学のロバート・ウォールディング教授の研究によると、家族、友人、コミュニティ等、周りとのつながりを持っている人はそうでない人よりも幸せで長生きするとしている。また、慶応義塾大学の前野教授の研究においては、幸福感と深い相関関係がある因子のひとつに「つながりと感謝の因子」があるとし、多様な人とつながりを持ち、人を喜ばせたり、人に親切にしたり、感謝したりすることが幸せをもたらすとしている。
- 委員 : 資料２「新大和市総合計画について」の２ページ、「（１）将来都市像」について、現総合計画の「健康都市やまと」から「みんながつながる健康都市やまと」に変えるようだが、「みんながつながる」や「健康」が意味することについて、市民の方がわかるように説明した方がよい。
- 会長 : 将来都市像の説明文について、修正することは可能か。
- 事務局 : 可能である。審議会の意見も踏まえて修正していきたいと考えている。
- 委員 : 将来都市像の説明文に「つながりを意識した施策」とあるが、どのような施策か、具体的に示す必要があると思う。
- 委員 : 資料３「計画の体系」について、現総合計画では人・まち・社会でカテゴリー分けをしているが、それに当てはめた場合、将来都市像実現に向けた目標「２ みんなが支え合うまち」と「４ 地域の絆が深く、多様性を認め合うまち」は社会にあたるのではないか。そのような観点で目標の並びを見直すと良いと思う。
- 会長 : 将来都市像実現に向けた目標の並び順も含め、計画の体系については、これからの審議において改めて検討したい。また、将来都市像実現に向けた目標の下において施策分野で分かれる構成について、分野をまたいで施策を展開する必要性もあると考えられるため、この点からも計画体系を検討していく必要があると思う。
- 委員 : 資料２「新大和市総合計画について」の２ページ、「（２）計画期間」について、令和１２～１６年度の後半５年間の基本計画を策定する際は、改めて基本計画の内容について審議するのか。
- 事務局 : そのとおりである。６月までの審議会においては、基本構想と令和７～１１年度の前半５年間の基本計画について、ご意見をいただきたい。
- 委員 : 資料２「新大和市総合計画について」の３ページ、「（３）計画期間における人口の推移」について、新たな総合計画の期間中は人口増が続く推計となっているが、生産年齢人口が減少し、高齢者人口が増えることを把握しておかなければならない。また、生産年齢人口は１５歳から６４歳までと幅が広いので、もう少し細分化すると大和市の正確な実態がつかめ、きめ細かな施策が展開できると思う。

- 事務局 : 総合計画に掲載する資料は、一般的な年齢3区分別の推計にしたいと考えているが、事務局で詳細なデータをもっているので、必要に応じて生産年齢人口を細分化してお示しすることは可能である。
- 委員 : 新たな総合計画を策定した後に、進行管理の一環として市民意識調査を実施すると思う。市民意識調査は、一般的に高齢者の回答率が高くなる傾向があるので、大和市の男女比や人口構成比で補正する必要がある。施策の効果を正確に把握するためにも、年齢別等の詳細なデータを活用して進行管理を行ってほしい。
- 事務局 : 市民意識調査では人口構成比等で補正した集計も行っている。今後も市民意識の正確な把握に努め、総合計画の進行管理を行っていきたい。
- 委員 : 資料2「新大和市総合計画について」の4ページ、「(4)土地利用の方向」に関連して、令和9年に上瀬谷で開催される横浜国際園芸博覧会(以下、博覧会という。)について、審議会に共有できる情報があれば可能な範囲で教えていただきたい。
- 事務局 : 新聞等の報道によると、東名高速道路に直結するインターチェンジの設置や、博覧会終了後の跡地に計画されている大型テーマパークと相鉄線瀬谷駅を結ぶバス専用の地下トンネルなどが計画されている。また、博覧会会場と鉄道駅の間を運行するシャトルバスは、瀬谷駅、三ツ境駅、南町田グランベリーパーク駅、十日市場駅の4駅が想定されている。大和市では、博覧会の開催に向けて何ができるのか、何をしなければならないのかを関係部署が集まり検討を進めているところである。また、横浜市に対しても働きかけを行い、連携を図っていきたいと考えている。
- 会長 : 大和駅と鶴間駅の間に中央森林地区という場所があり、以前、新駅を作る計画があった。もし、新駅が設置できたとしたら、国道246号線で新駅と上瀬谷をつなぐ現実味が出てくる。大和市として力を入れて取り組むのであれば、それぐらいインパクトのある計画を考えないといけないのかもしれない。令和7～11年度の前半5年間の基本計画に記載できることは少ないと思うが、横浜市としっかりと連携を図り、必要な事業を進めていただきたい。
- 委員 : 資料2「新大和市総合計画について」の5ページ、「(5)財政運営の方向」について、「公共施設を維持・改修するための経費は増加していく」と記載がある。総務省からは、公共施設の複合化・集約化などを視野に入れた適正管理に関する方針が示されていると思う。「積極的な国・県の補助金の活用」という言葉も出てくるが、どのような補助金の活用を想定しているのか。また、「受益者負担の適正化」という言葉は、何を想定した記載なのかを教えてほしい。
- 事務局 : 国・県の補助金については、公共施設に限ったものではなく、幅広く活用し財源の確保を図っていきたいと考えている。公共施設に関しては、大和市はこれまでは人口増が続いてきたので大きな影響はなかったが、新たな総合計画の期間終了直後には、人口のピークを迎えることが予測されており、公共施設の適正配置等についても検討を進める必要があると考えている。

受益者負担としては、例えば下水道使用料や施設使用料、各種手数料などがあるが、具体的に何かを想定して「受益者負担の適正化」と記載したわけではない。しかし、受益者負担の適正化も含め、今後も財源の確保に努めなければならないと考えている。

委員 : 今後、生産年齢人口が減少し税収が減っていくのであれば、公共施設の統廃合もやむを得ないと思う。一方で、市民のつながりを増やし幸せを感じられるようなまちを目指すのであれば、一定程度の利用が見込まれる公共施設は存続させる必要がある。市民のニーズを的確に捉えた上で、受益者負担や公共施設の適正配置を進めるといったことを総合計画に盛り込んでいかなければならないと思う。

会長 : 新たな総合計画の10年間の中で、改修をしなければいけない公共施設、増強する必要がある公共施設、廃止できる公共施設はどれくらいあるのか。例えば、市立病院を建替するとなると、莫大な予算がかかる。公共施設は様々な施策分野に関わってくるので、委員全員で情報を共有できるよう事務局で資料を作成してほしい。

委員 : 人口が同程度の茅ヶ崎市は、保健所政令市として市が保健所を設置している。大和市の保健所業務は、県の厚木保健福祉事務所の大和センターが担っているが、今後、保健所政令市に移行する予定はあるか。また、民間の施設に対して補助金を出すことは難しいと認識しているが、民間が経営している特別養護老人ホームなどの建替に対する補助制度を創設する予定はあるか。

事務局 : 以前に保健所政令市への移行を検討したことはあるが、市の負担が多いことが考えられ見送った経緯があり、現在のところ保健所政令市に移行する予定はない。

特別養護老人ホームについては、大和市でも老朽化が進んでいる施設がある。国や県に対して、既存施設の建替を補助対象にするよう要望しているが、実現には至っていない。市単独で補助することは財政的に難しいので、引き続き、国や県に要望していきたい。

委員 : 資料2「新大和市総合計画について」の4ページ、「(4)土地利用の方向」について、今後、人口が増加していく地域もあれば減少していく地域もある。そのあたりの課題を整理した上で、方向性を記載した方がよいと思う。

会長 : 市北部は人口が増加傾向、南部は減少傾向にある。高齢化率も異なると思うので、地域別の人口推移を踏まえた施策展開も必要だと思う。

委員 : 資料2「新大和市総合計画について」の5ページ、「(5)財政運営の方向」について、公共施設の改修や社会保障関連経費の増加により多額の費用がかかる。そのため、市が実施する事業を絞り込んでいく必要があることを記載した方がよい。

事務局 : 資料1の3ページ、「行政経営の方針」に「市民にとって真に必要な施策の取捨選択を図り」と記載しており、そのような趣旨の記述は必要と考えている。

委員 : 大和市の魅力を向上させることができれば、地価が上がり、固定資産税や都市計画税の税収増にもつながると思う。

- 会長 : 新たな総合計画では、DX（デジタルトランスフォーメーション）についての記載も出てくると思うが、DXについて委員の意見を伺いたい。
- 委員 : 国はデジタル田園都市国家構想を策定し、デジタル技術の活用によって都市と地方を結ぶことで、均衡ある発展を目指している。基礎自治体として取り組むことは大きく3つあると考えており、1つ目は行政内部のデジタル化により効率的に業務を行うこと。2つ目は、電子申請やマイナンバーカードの利用など、デジタル技術の活用により市民の利便性を向上させること。3つ目は、市役所だけでなく地域全体のデジタル化を図り、デジタル化によるメリットを享受できる社会を構築すること。新たな総合計画の将来都市像は、「みんながつながる健幸都市やまと」であり、「みんなが」や「つながる」という部分に対して、デジタルが果たす役割は大きいと考えている。ただし、デジタルだけでつながっていて、リアルで全くつながっていない人が、本当に幸せなのかという問題もある。一方で、リアルなつながりはあるが、デジタルでつながる術を持っていない人が、この先の幸せを得られるのかという問題も考えられる。個人的には、リアルとデジタルの両面からつながることができる社会の構築が重要だと思う。
- 会長 : 行政や市民にとって、どのようなデジタル技術の活用が適切かという視点をもって、施策を展開していくことが重要である。デジタル技術の恩恵を受けることのできない市民へのフォローも含め、総合計画に記載する内容を検討していきたい。
- 委員 : 市役所のデジタル化について、ドローンや生成 AI の導入の検討も必要だが、まずはペーパーレス化を進めるべきではないか。この総合計画審議会でも紙の資料が非常に多く、SDGs の観点からも良くないため、見直してもらいたい。
- 委員 : 市役所本庁舎の老朽化が進んでいると思う。費用はかかるが、建替することによって市役所のデジタル化も進むと思う。
- 会長 : 本庁舎を建替する時期も近づいてきていると思うので、先程も述べたが、公共施設全体の更新や維持管理に関する資料を事務局で作成してほしい。
- 事務局 : 承知した。
- 委員 : 令和5年度の市民意識調査結果は、性別や年齢による補正、前回結果との有意差の有無などが分析されていて、今後の施策を検討するにあたって参考になると思う。例えば、成果を測る主な指標で、統計的に有意なのは、18項目中、9項目もある。これは、大和市の施策が令和3年に比べて、この2年間で一定の効果をあげている証左といえるのではないか。また、ウエイトバック集計後の最も重点的に進めてほしいと思う分野として「子育て」がトップで、具体的には、「未来のやまと」で募集した市民意見に①発達障害児の支援学級の創設、②老朽化した遊具の買い替え、③子育て中の親への支援などの声が散見されることにも注意すべきだと思う。
- 委員 : DXについて、他の地域をみているとデジタル機器の設置やデジタル技術を使うための仕組みづくりが先行している気がする。本来は、課題解決を目指すことが先にあり、そのための手段としてデジタル技術が適し

ていると判断される場合に、その活用が図られるべきだと思う。
公共施設について、一般的に若者の利用が少ないという課題がある。リ
ニューアルする際には、行政主導で進めるのではなく、若者の意見を取
り入れて進めてほしい。

委員 : 「健幸」や「つながり」の概念を説明することは非常に重要だと思う。
将来都市像実現に向けた目標「3 こどもが将来に希望を持って生きる
まち」は、他の目標と異なり、個人の内面に関する表現になっているの
で、今後議論していく必要があると思う。

委員 : 市民意識調査の結果には民意が表れている。この結果を踏まえること
により、総合計画に関する建設的な議論ができると思う。

会長 : 他に意見等がないようであれば、本日の審議についてはここで終了し、
今回の審議会で出た意見等については事務局でまとめることとする。

以 上